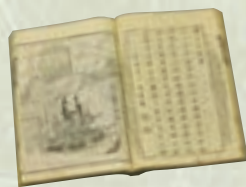




長浜市民が「太閤さん」と親しみを込めて呼ぶ
神格化された秀吉の姿をぜひ御覧ください。



企画展

神になった 秀吉



平成26年 6月2日(月)~7月6日(日) 会期中無休

開館時間 9時~17時(入館は16時30分まで)
入館料 大人600円、小中学生300円(団体20名様以上2割引) ※長浜市・米原市の小中学生は無料
主催 公益財団法人長浜曳山文化協会

企画展

神になった秀吉

平成26年 6月2日(月)～7月6日(日) 会期中無休

長浜市は、天正年間に羽柴秀吉が今浜を長浜と改名し、小谷の城下町から商人たちを移住させ城下町を作ったのが始まりです。秀吉は開町の際、長浜町屋敷年貢米300石免租地の特権を与えましたが、これは江戸時代、彦根藩領になってからも継続されました。

町民たちはこの免租のお蔭で現在の長浜町の繁栄があると感謝し、元禄13年(1700)から計画的に3年かけて町年寄・吉川三左衛門ら町民137人が「地子(じし)報恩講(ほうおんこう)」を結成し、知善院観音堂を建立しました。お堂内部の中心には木造十一面観音坐像(重要文化財)を祀っていましたが、その左右には豊臣秀頼八歳の書と記された「豊国大明神」の神号と、徳川家康の神号「東照大明神」を飾っていました。知善院は秀吉の生前から寺領30石を受け、中国攻めの際、書写山円教寺から持ち帰った本尊阿弥陀三尊像を寄進されたほか、死後も大坂城天守閣に安置してあった木造豊臣秀吉坐像を祀るなど関係は濃密でした。

昭和6年(1931)の秀吉350回忌は、長浜町はもとより周辺の湖北地域から多くの寄付金を募り行われました。町長をはじめ各自治会の代表や町民有志、寺院関係者など約450人が参加する大規模なものでした。

本年は淀殿、秀頼の没後400年を迎える年にあたり、実行委員会により賑々しく400回忌大遠忌法要祭が執り行われることとなりました。本館も秀吉の開いた城下町の中心部に位置し、秀吉開基伝承をもつ曳山をメインに陳列するところから、これを機に長浜市民が「太閤さん」と親しみを込めて呼ぶ神格化された秀吉の姿の一端を展示することになりました。秀吉と長浜の時代を超えた固い結びつきの様子をご覧ください。幸いです。



御幣迎えの時に飾られた秀吉像
(萬歳樓瀬田町組蔵)



絵本太閤記

主な展示資料

秀吉出世物語屏風	六曲一双	江戸時代後期	個人蔵
絵本太閤記	五冊	江戸時代後期	長浜城歴史博物館蔵
豊臣秀吉像	山縣岐鳳作 一幅	江戸時代後期	萬歳樓瀬田町組蔵
太功記十段目図	中川とも作 一点	現代	ミュージアム中仙道蔵
絵入り瓢箪	五点	現代	個人蔵

同時開催

土蔵から見つかった江戸時代の貨幣展

《期間限定展示テーマ》 おもちゃの貨幣 6月2日(月)～8月31日(日)

子どもの頃(昭和30年ごろ)おもしろブックの付録に、厚手の紙に印刷された「お金」が付いていました。ドキドキしながら一枚一枚切り離して重ねると札束ができる、それを使って女の子と買い物ごっこをしたのを、かすかに憶えています。違う号では大判や小判のおまけもあったような気がします。さて今回の展示資料は江戸時代、京都の子どもの間で使われた瀬戸物のお金です。非常に現実的で小銭が主流ですが、その当時の子どもたちがおもちゃの貨幣でどんな遊びをしたのか、興味津々です。紙と違って瀬戸物のお金ですがちゃんと金額も入っています。夏休みのあいだ展示しますので子どもさんたちもぜひ見に来てください。自由研究の課題になるかもしれません。分からないことは博物館の学芸員に聞いてください。ではごゆっくり江戸時代にタイムスリップ。

NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBUTSUKAN Ave.

滋賀県長浜市元浜町14番8号

[TEL] 0749-65-3300 [FAX] 0749-65-3440

<http://www.nagahama-hikiyama.or.jp/>

入館料

	大人	小中学生	障がい者
個人	600円	300円	無料
団体 (20名様以上)	480円	240円	障がい者手帳の提示で本人と介護者1名

*長浜市・米原市の小中学生は無料

■ 9時～17時(入館は16時30分まで)
■ 休館日: 年末年始(12月29日～1月3日)



●JR長浜駅から徒歩7分 ●長浜ICより車で10分